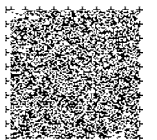




第4章

ファンゾーン



- ファンゾーンとは、RWC2019 の開催期間中に開催都市に設置され、パブリックビューイングや、ケータリングによる飲食の提供、ラグビーの普及活動、大会スポンサーによるプロモーション活動等が行われ、試合チケットの有無に関わらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場である。
- 都は、全ての人が、国籍や性別、応援するチーム等の垣根を越え、打ち解けあい、その輪を広げていく場となるものとして、多摩会場及び区部会場の2か所で、ファンゾーンの企画・運営を行った。
- 両会場では、それぞれの特性を活かし、パブリックビューイング、ステージイベント、ラグビーアクティビティ、ケータリング、大会スポンサー活動、他自治体PRなどを展開した。
- また、両会場とも、アクセシビリティ対応、多言語対応、環境配慮の取組を行った。
- 多摩会場では、ファンゾーン会場に隣接する調布市のイベントと連携し、区部会場では、丸の内エリアで大会スポンサーが行うイベントや銀座エリアの地元商店街と連携し、相互にPRを行うなど、周辺エリアと連携した。
- 台風19号の影響により、多摩会場は2日間、区部会場は1日中止し、両会場とも1日は開始時間を遅らせて開催した。
- 来場者数は、計画上、両会場合わせて185,000人と想定していた。台風の影響により中止になった日もあったが、両会場合計で想定を大きく上回る310,500人となった。

1 ファンゾーン会場の決定

ファンゾーンとは、RWC2019 の開催期間中に開催都市に設置され、パブリックビューイングや、ケータリングによる飲食の提供、ラグビーの普及活動、大会スポンサーによるプロモーション活動等が行われ、試合チケットの有無に関わらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場である。

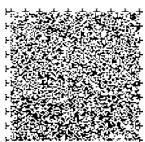
都は、ファンゾーン会場の選定に当たり、

- ・ 立地（開催都市の中心部など人通りが多く、アクセスしやすい場所とし、交通負荷軽減のためスタジアムやその最寄駅周辺は回避）
- ・ 開催日（原則として、東京会場での試合日、日本代表の試合日、準決勝及び決勝の日に開催が可能であること）
- ・ 雨天・寒さ対策（特にパブリックビューイングについて対策が可能であること）
- ・ 夜間（～22時）の照明・音出し対策（夕方以降の試合に合わせた照明設置や近隣への騒音対策が可能であること）
- ・ 実施経費（費用対効果の観点から、コスト削減が図られること）

の観点から検討を行った。

さらに、ファンゾーン会場を、東京スタジアムが所在する多摩地域と、全都的な盛り上げを図るために区部の計2か所に設置することとした。

2018（平成30）年7月、次の施設を会場候補に選定し、組織委員会の承認を得て、2019（平成31）年1月に正式にファンゾーン会場として決定した。



【多摩会場】

場所：調布駅前広場・調布市グリーンホール等

住所：調布市小島町2-47-1 ほか
(調布駅より徒歩1分)



調布駅前広場・調布市グリーンホール等

【区部会場】

場所：東京スポーツスクエア

住所：千代田区丸の内3-8-3
(有楽町駅より徒歩1分)



東京スポーツスクエア

2 運営計画の策定

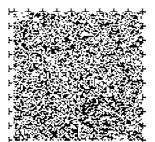
RWC2019 ファンゾーン運営計画(素案)を2019(平成31)年1月に策定し、開催日程やコンセプト等を明らかにした。

同年4月には、素案をより具体化し、開催時間を含む開催スケジュールや実施コンテンツの基本的な考え方、会場レイアウトのイメージ等を明らかにしたRWC2019 ファンゾーン運営計画(案)を策定し、組織委員会に提出した。同年7月に組織委員会の承認を得て、正式に決定した。

(1) 多摩会場基本コンセプト

試合会場との一体性を確保し、スタジアムの玄関として、試合への期待と試合後の余韻を創出

<多摩会場周辺図>



(2) 区部会場基本コンセプト

丸の内・銀座エリアへの広がりを持たせ、東京・日本の玄関として、国内外の来場者をおもてなし

＜区部会場周辺図＞



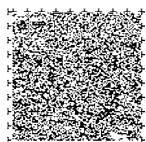
(3) 開催日

東京スタジアムの試合日及び大会期間中の土・日曜日（15日間）に開催する。その他試合日（多摩3日間、区部11日間）には、パブリックビューイングを中心として開催する。

＜開催日程＞

開催日程	パブリックビューイング放映試合	開催日程	パブリックビューイング放映試合
9/20(金) C Y 12:00-22:30	日本 v ロシア	10/6(日) C Y 12:00-20:00	ニュージーランド v ナミビア
9/21(土) C Y 12:00-22:00	オーストラリア v フィジー	10/8(火) Y 17:30-22:00	フランス v トンガ
9/22(日) C Y 12:00-22:00	フランス v アルゼンチン	10/9(水) Y 12:00-21:30	南アフリカ v カナダ
9/23(月祝) C Y 17:30-22:00	ニュージーランド v 南アフリカ	10/11(金) C Y 17:30-22:00	アルゼンチン v アメリカ
9/24(火) Y 17:30-22:00	イタリア v ナミビア	10/12(土) C Y 12:00-22:00	スコットランド v ロシア
9/25(水) Y 12:30-20:00	アイルランド v スコットランド	10/13(日) C Y 12:00-22:00	ウェールズ v フィジー
9/26(木) Y 15:00-22:00	イングランド v トンガ	10/19(土) C Y 14:00-22:00	オーストラリア v ジョージア
9/28(土) C Y 12:00-22:00	ウェールズ v ジョージア	10/20(日) C Y 14:00-22:00	ニュージーランド v イタリア
9/29(日) C Y 12:00-20:00	ロシア v サモア	10/26(土) C Y 14:00-21:00	イングランド v フランス
9/30(月) Y 17:30-22:00	フィジー v ウルグアイ	10/27(日) C Y 14:00-22:00	アイルランド v サモア
10/2(水) Y 15:00-22:00	イタリア v カナダ	11/1(金) C Y 14:00-22:00	ナミビア v カナダ
10/3(木) Y 12:30-22:00	イングランド v アメリカ	11/2(土) C Y 14:00-22:00	アメリカ v トンガ
10/4(金) C Y 17:00-21:30	アルゼンチン v トンガ		ウェールズ v ウルグアイ
10/5(土) C Y 12:00-22:00	日本 v アイルランド		日本 v スコットランド
	南アフリカ v ナミビア		準々決勝
	ジョージア v ウルグアイ		準々決勝
	オーストラリア v ウェールズ		準々決勝
	スコットランド v サモア		準々決勝
	フランス v アメリカ		準決勝
	ニュージーランド v カナダ		準決勝
	ジョージア v フィジー		3位決定戦
	アイルランド v ロシア		決勝
	南アフリカ v イタリア		
	オーストラリア v ウルグアイ		
	イングランド v アルゼンチン		
	日本 v サモア		

C 調布（多摩会場） 18日間
Y 有楽町（区部会場） 26日間



(4) 想定来場者数

東京での試合日及び土日：各会場平均 5,000 人（1日当たり）
 その他の開催日：各会場平均 2,500 人（1日当たり）

(5) コンテンツ

パブリックビューイング、ステージイベント、ラグビー体験、ケータリング、公式グッズ販売、交流エリア等

3 内覧会の実施

ファンゾーンの開催に先立ち、メディア向けに区部会場の内覧会を実施した。

日時：2019（令和元）年9月19日（木）
 16時40分～18時40分

内容：ブリーフィング、会場内自由撮影等
 参加メディア数：28社、46名

〔別途、都議会議員、開催都市首長及び議長向けの内覧会を15時10分～16時に実施〕

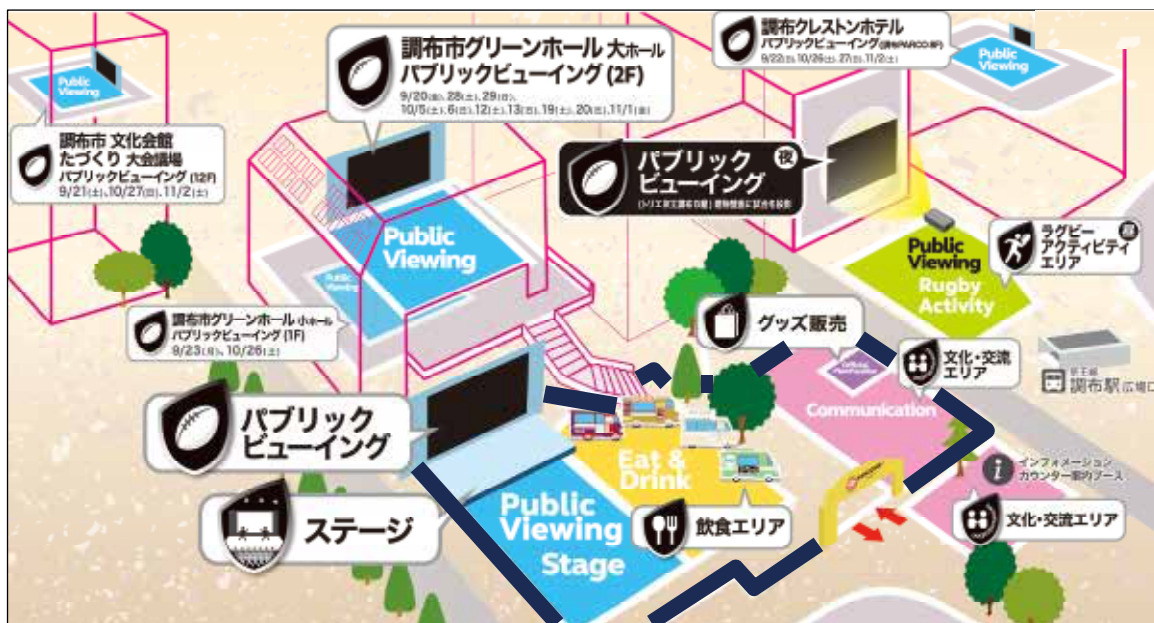


注目スポット紹介コーナー

4 多摩会場のコンテンツと特色

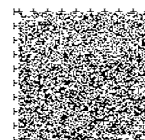
<会場図>

調布駅前広場・調布市グリーンホール等



(1) パブリックビューイング

会場内の3か所でそれぞれコンセプトの異なるパブリックビューイングを実施した。



ア ステージビジョン

フェンス内エリアのステージ上に 250 インチのビジョンを設置し、「飲食しながらゲストと一緒に盛り上がり試合観戦」をコンセプトに実施した。

日本代表戦など注目度の高いカードでは、ステージビジョン前に約 900 人の来場者が観戦した。



ステージビジョンの様子

イ 屋内会場

調布市グリーンホール（大ホール）を使用した。なお、大ホールが使用できない日は、小ホールや文化会館たづくり大会議場、同会館 2 階くすのきホール、調布クレストンホテル宴会場を使用した。

音楽ホールのステージに、プロジェクターで 400 インチ相当の映像を投射し、「落ち着いた快適な環境で試合観戦」をコンセプトに実施した。

日本代表戦など注目度の高いカードでは、大ホールに 1,200 人以上の来場者が訪れ、満席となった。



グリーンホール（大ホール）の様子

ウ 壁面スクリーン

日没後、調布駅前広場に隣接するトリエ京王調布 B 館の壁面に、プロジェクターで 500 インチ相当の映像を投射した。

客席は、日中にラグビーアクティビティで使用した人工芝を活用し、「開放的な環境で芝生に座って試合観戦」をコンセプトに実施した。

注目度の高いカードでは、人工芝エリアに約 600 人の来場者が観戦をするとともに、周辺エリアや路上にも多くの人々が集まり、推定 2,200 人の観戦者で調布駅周辺は大いに盛り上がった。

なお、特に、日本代表戦の際には来場者が多く、通路にも多数の滞留者が発生した。そのため、警備員の増強や資器材の投入等により誘導・整理を行うとともに、ステージビジョンや屋内会場の空き状況を把握し、来場者に案内することなどにより、混乱を防止した。



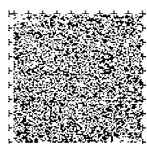
壁面スクリーンの様子

(2) ステージイベント

ステージゲストは、ラグビー選手（元選手を含む）、お笑いタレント、俳優・歌手等による構成を基本とし、試合前後やハーフタイム中に、試合解説を行うとともに、お笑いステージやミニライブ、トークショー等を開催した。その他、アルゼンチンタンゴや時代劇ショー等も開催した。



ステージイベント（トークショー）



＜主なステージゲスト＞

ラグビー選手 (元選手を含む)	鶴ヶ崎好昭、元木由記雄、畠山健介、田沼広之、菊谷崇、小倉順平、浅原拓真、梶原宏之、高橋真弓、大八木淳史、小野澤宏時、松田努、箕内拓郎、松尾雄治、斉藤祐也
お笑いタレント	ブルゾンちえみ with B、まんぷくフーディー、おぼたのお兄さん、ケンドーコバヤシ、ジャルジャル、いぬ、パッケンマックン、ビスケットィ、かぎしっぽ、中川家、しんや、なにわブラッチック、ドドン、ANZEN 漫才
俳優・歌手等	Beverly、佳久創、カルナバケーション、山崎紘菜、結子、田中美里、林家たま平、KAGAJ0☆7、DJ K00、大原櫻子
オリンピック等 スポーツ関係者	ヨーコ ゼッターランド (元バレーボール選手)、新谷賢太郎 (アナウンサー)、蝶野正洋 (プロレスラー)、村上晃一 (ラグビー解説者)、矢野武 (アナウンサー)

(出演順、敬称略)

(3) ラグビーアクティビティ

会場内に人工芝を敷き詰めたラグビー体験コーナーを設置した。

都内ラグビースクールの指導者やスクール生、首都大学東京ラグビー部、さらに多摩地域に練習拠点を有しているラグビートップチーム等に協力を依頼し、日替わりでトップ選手と一緒にトライやリフトアップ、タッチフット(タックルをタッチに代えた簡易型フットボール)等の体験を実施した。

また、東京都ラグビーフットボール協会と連携し、ラグビーに関する相談等を受けるラグビー普及コーナーも設置した。



選手によるリフトアップ

＜参加トップチーム等＞

リコーブラックラムズ (世田谷区)、日野レッドドルフィンズ (日野市)、東芝ブレイブルーパス (府中市)、栗田工業ウォーターガッシュ (昭島市)、キャノンイーグルス (町田市)、サントリーサンゴリアス (府中市)、ラグビー女子日本代表 (横河武蔵野アルテミ・スターズ (武蔵野市) 所属選手)

(出演順)

(4) ケータリング

フードについては、出場国にちなんだ料理を1品以上提供することを要件に、日替わりでキッチンカー4～6台を手配した。

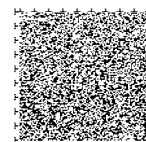
ドリンクについては、ドリンク専用のカウンターを設け、ビール、シードル、ソフトドリンクを販売するとともに、各キッチンカーでも販売を行った。



キッチンカーによるケータリング

＜フードメニュー＞

ローストビーフ丼 (オーストラリア)、フィッシュアンドチップス、ギネスシチュー (アイルランド)、ラザニア、アラビアータ、ピザ (イタリア)、ビーフストロガノフ、ボルシチ (ロシア)、BBQ チキンプレート (フィジー)、ペリペリチキン (南アフリカ)、コンフィ (フランス)、うなぎ、焼きそば、うどん (日本)



(5) 公式グッズ販売

フェンス内エリアに公式グッズ販売コーナーを設置した。レプリカユニフォームやレンジーのぬいぐるみ等、様々なグッズを取り扱った。

(6) 文化・交流エリア等

自治体・大使館 PR エリアには、都の呼び掛けに対し、出展協力の申出のあった 17 市町が出展するとともに、2 か国の大使館が出展した。また、産業労働局による観光ブースや東京産食材試食コーナーを設置した。さらに多摩地域の魅力を発信するため、足湯体験など、様々な体験コーナーを設けた。



自治体・大使館 PR エリア



足湯体験



時代劇体験

<自治体・大使館 PR エリアの出展者>

自治体	八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町
大使館	フランス、アルゼンチン

<多摩地域の魅力発信>

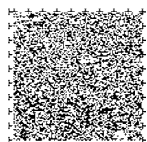
足湯体験	・日替わりで4つの温泉から直送（秋川溪谷瀬音の湯、生涯青春の湯つるつる温泉、奥多摩温泉もえぎの湯、檜原温泉センター数馬の湯） ・大多摩観光連盟協力
新選組 なりきり体験	新選組のふるさと歴史館協力
祭囃子体験	調布市郷土芸能祭ばやし保存会協力
時代劇体験	高津装飾美術（株）協力（着付け、まち駕籠搭乗等）

また、大会スポンサーエリアには、ランドローバー社、キヤノン（株）、（株）NTT ドコモ、大正製薬（株）、読売新聞社が出展した。また、生活文化局と連携し、ヘブンアーティストによるパフォーマンスを実施した。

(7) 試合会場との連携

多摩会場は、試合会場である東京スタジアムと近接しており、東京会場で試合がある日は、より多くの来場者があり、チケットホルダーを含む多くの来場者で試合前後も賑わった。

調布駅から試合会場までのシャトルバスの案内や試合会場への持込禁止物をアナウンスするなど、東京スタジアムへの円滑な入場を促した。また、試合会場周辺の警備員やボラ



ンティアにファンゾーンの混雑状況を共有し、観客誘導に活用するなど、ファンゾーン会場と試合会場で連携した運営を行った。

5 区部会場のコンテンツと特色

<会場図>

東京スポーツスクエア



(1) パブリックビューイング

東京スポーツスクエア 1階に3台、2階に1台の大型ビジョンを設置し、パブリックビューイングを実施した。

ア 1階

横幅約10mのマルチビジョン(500インチ)を中央ステージにメインとして設置するとともに、左右に200インチのサブビジョンを設置し、「飲食しながらゲストと一緒に盛り上がりながら試合観戦」をコンセプトに実施した。マルチビジョンでは画面を分割し、試合映像とともに、得点経過やルール解説、スターティングメンバー等を投映した。

各試合とも、多くの来場者が3台のビジョン前に集まり試合を観戦した。



1階メインビジョン

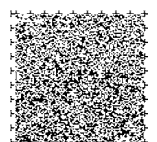
イ 2階

「家族揃ってのんびり試合観戦」をコンセプトに、2階全体をノンアルコールエリアに設定し、200インチのビジョンの前にカーペットを敷き詰め、靴を脱いで座って観戦できるようにした。

日本代表戦など注目度の高い試合では、カーペット後方



2階ビジョン



の通路に立ち見が出るほど、大いに盛り上がった。

(2) ステージイベント

ステージゲストは、ラグビー選手（元選手を含む）、お笑いタレント、俳優・歌手等による構成を基本とし、試合前後やハーフタイム中に、試合解説等を行うとともに、お笑いステージやミニライブ、トークショー、DJパフォーマンス等を開催した。その他、モデルによるファッションショーやアイリッシュダンス、ハカパフォーマンス等も開催した。

11月1日（金）には、特別ゲストとして、今大会に日本代表として出場した田中史朗選手と松田力也選手が出演した。



ステージイベント
(ハカパフォーマンス)

<主なステージゲスト>

ラグビー選手 (元選手を含む)	立川理道、伊藤剛臣、大西一平、元木由記雄、村田互、梶原宏之、田沼広之、浅原拓真、畠山健介、大八木淳史、小倉順平、斉藤祐也、松尾雄治、ロス・アイザック、大西将太郎、田中史朗、松田力也
お笑いタレント	キャイ〜ン、オテンキ、セバスチャン、なにわブラッチック、松村邦洋、ブルースタンバリン大誠、小島よしお、あがすけ、ティモンディ、カミナリ、烏龍パーク加藤、ねこじゃらし、ケンドーコバヤシ、しんや、ジャルジャル
俳優・歌手等	SUPER☆GiRLS、結子、坂本奨悟、80min girls、前田誠二、りゅうちえる、ドーキンズ英里奈、ホワイトアウトトーキョー、山下真司、麻倉未稀、DJ K00、田中美里、輝&輝、夢みるアドレセンス、岡本真夜
オリンピック等 スポーツ関係者	土居壮（アナウンサー）、伊藤華英（元水泳選手）、矢野武（アナウンサー）、ヨーコ ゼッターランド（元バレーボール選手）、武藤敬司（プロレスラー）、村上晃一（ラグビー解説者）、萩原次晴（元スキー選手）

(出演順、敬称略)

(3) ラグビーアクティビティ

屋内会場のため、限られたスペースを活用し、1階にはタックル測定器を設置するとともに、リフトアップ体験を実施した。

また、2階にはラグビーボールを使用したストラックアウト、キック体験ができる器具を設置した。

さらに、東京都ラグビーフットボール協会と連携し、ラグビーに関する相談等を受けるラグビー普及コーナーも設置した。

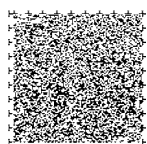
3階は、「学ぶラグビーアクティビティ」をコンセプトとし、ラグビーの聖地「トゥイッケナムスタジアム」に併設のラグビーミュージアムから借り受けた日本代表のユニフォーム等を展示した特別展「日本のラグビー史」を開催した。



タックル測定器



特別展「日本のラグビー史」



＜特別展「日本のラグビー史」＞

テーマ	主な展示品
ヨークシャーから横浜へ	1874 ハーパーズウィークリーマガジン 1904 慶応大学ジャージ
勇敢な桜の戦士	1932 カナダ 対 日本 チケット 1934 日本代表ジャージ
ミラクル・イヤーズ	1968 日本代表ジャージ 1968 日本代表 対 U-23 ニュージーランド チケット
グローバル・ジャパン	1973 ウェールズ 対 日本 チケット・プログラム 1986 日本代表ジャージ
2019年への道	1989 日本 対 スコットランド チケット・プログラム 2003/2011 日本代表サイン入りジャージ

(4) ケータリング

フードについては、2階に厨房を設置し、その場で料理したものを1階及び2階で提供した。

ドリンクについては、ドリンク専用のレーンを設け、ビール、シードル、ソフトドリンクを販売するとともに、フードの注文口でも販売を行った。



ケータリング（2階フードコート）

＜フードメニュー＞

ラムチョップ（オーストラリア）、チョリパン（アルゼンチン）、ホットドック（アメリカ）、フレンチチーズポテト（フランス）、カナディアンメープルチュロス（カナダ）、フィッシュアンドチップス（イングランド）、ミニガルブツィ（ロシア）

(5) 公式グッズ販売

会場入口付近に公式グッズ販売コーナーを設置し、レブリカユニフォームやレンジーのぬいぐるみ等、様々なグッズを取り扱った。なお、公式グッズ販売コーナーについては、大会期間を通じて営業（非試合日を含む）を行った。



公式グッズ販売コーナー

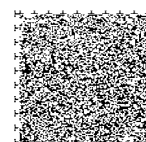
(6) 文化・交流エリア等

大会スポンサーエリア（東京スポーツスクエア2階）には、キャノン（株）、三菱地所（株）、（株）NTTドコモ、日本電気（株）、大正製薬（株）が出展した。

開催都市PRエリア（同3階）には、全ての開催都市のPRコーナーを設置するとともに、5都市（岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、大阪府・東大阪市、神戸市、熊本県・熊本市）については、物産販売も行った。



開催都市PRエリア



また、浴衣着付け体験コーナーや、ハカレクチャーコーナー、ネイル・フェイスペイントコーナーも設置するとともに、生活文化局と連携し、ヘブンアーティストによるパフォーマンスを実施した。

加えて、産業労働局と連携し、観光ブースを設置した（同1階）。

同別館1階には、ハイネケン社がビアバーを設置し、大会期間を通じて営業（非試合日を含む）を行った。



浴衣着付け体験コーナー



ビアバー

自治体・大使館 PR エリア（有楽町駅前広場）には、出展協力の申出のあった7区が出展するとともに、3か国の大使館が出展した。

<出展者>

自治体	中央区、台東区、墨田区、江東区、練馬区、足立区、江戸川区
大使館	ジョージア、アイルランド、オーストラリア



ジョージア大使館



アイルランド大使館



オーストラリア大使館

(7) 大会写真展

東京スタジアムで行われた試合や日本代表の試合を中心に、今大会における代表選手たちの躍動感あふれるプレーやシーンを、読売新聞社の協力により、写真パネルにして展示した。

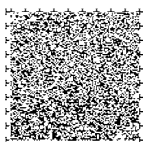
【展示日】

10月13日（日）、19日（土）、20日（日）、26日（土）、27日（日）、11月1日（金）、2日（土）



写真展の様子

また、大会終了後も、大会のレガシーとして都内各所で展示した（詳細は、第8章を参照）。



6 警備・医療

事故を未然に防ぎ、また、万が一事故が発生した場合には、迅速に適切な対応ができるよう、会場内外に警備員を配置した。巡回警備を行うとともに、入場ゲートにおいては、警備員とスタッフが手荷物検査を実施し、危険物又はそれに類する物品の持込みを未然に防止した。



手荷物検査の様子（多摩会場）

会場に多くの人々が来場し、混雑が生じた場合には、入場を制限した。両会場ともに想定以上の来場者があったため、随時、会場内ブース等のレイアウトの見直しを行うなど、より多くの来場者が入場できるよう努めた。入場規制時には、待機列を設け、退場者の状況を踏まえ、可能な範囲で入場させるなど、柔軟な対応を行った。

開催期間中、入場規制は、多摩会場では6日間、区部会場では6日間実施した。

また、会場内には救護所を設置し、看護師を配置した。開催期間中の救護所の利用は、多摩会場で11件、区部会場で22件あり、いずれも転倒による擦過傷の手当てや泥酔者の対応等、軽微なものがほとんどであった。

7 アクセシビリティ対応

高齢者や体の不自由な方、小さな子供連れの方等も安心して来場でき、楽しむことができるよう、多目的トイレの設置、車椅子が通れる通行幅の確保、車椅子用パブリックビューイングスペースの確保等の対応を行った。



車椅子用パブリックビューイングスペース（多摩会場）

8 多言語対応

組織委員会が試合会場周辺における誘導サインの基準として策定した「誘導サインガイドライン」に準じ、ファンゾーンにおいては、日本語と英語の二か国語を使用したサインを掲示した。また、表記にはピクトグラムも使用した。

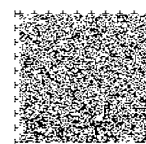
さらに、イベントスケジュールや会場マップ等の配布物も二か国語で作成し、配布するとともに、ファンゾーンのHPも二か国語で作成した。



会場マップ（多摩会場）【日本語】



会場マップ（多摩会場）【英語】



9 環境配慮等の取組

受動喫煙対策として、ファンゾーン会場は完全禁煙とし、会場内に喫煙所は設置しなかった。来場者等から大きな苦情等はなく、円滑に運用することができた。

また、ワンウェイプラスチック対策として、ケータリングでプラスチック製品は取り扱わないこととし、飲料は原則として缶製品のみとした。食事も、紙食器や木製スプーン等で提供した。



持ち込み禁止物の案内サイン 会場で使用した木製フォーク、箸、木製スプーン

排出されたゴミについては、会場ごとの地域の区分に従い、燃えるゴミ、燃えないゴミ、プラスチック、ビン、缶、ペットボトル、飲み残し・食べ残しの別に回収した。

区部会場においては、環境局事業で配置した「分別ナビゲーター」が来場者にごみの分別を案内した。リサイクル可能なゴミは、リサイクル業者に収集を依頼した。



「分別ナビゲーター」の活動

10 周辺エリアとの連携

多摩会場においては、会場周辺において、調布市が「調布スクラムフェスティバル vol. 6」を実施した。地元事業者のキッチンカーによる飲食販売や、市内文化団体による生け花体験、けん玉やベーゴマ等の昭和遊び体験等が行われた。



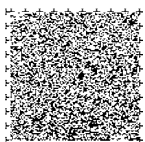
調布スクラムフェスティバル vol. 6 の様子

区部会場においては、丸の内エリアにおいて、大会スポンサーである三菱地所(株)が「丸の内 15 丁目プロジェクト」を展開した。また、大会期間中には、丸ビル1階の「MARUOUCHI RUGBY PARK」において、パブリックビューイングを実施した。都は、これらと連携し、相互に PR を行うことで来場者の周遊を促すとともに、三菱地所(株)との共催で、東京駅前の行幸通りに出場国の国旗をモチーフにしたサインオブジェを設置した。



サインオブジェ (行幸通り)

また、銀座エリアでは、地元商店街等と連携を図り、会場内で周辺地図を配布し、飲食店等の紹介を行うとともに、ボランティアが商店街でファンゾーンのチラシを配布するなど、相互に PR を行った。



11 広報

広報東京都、チラシ、ポスターなどの紙媒体だけでなく、公式HPの作成、SNSによるリアルタイム配信、さらに、HPと連動したSNS広告などを実施し、幅広い層にPRした。



ファンゾーン in 東京チラシ



ファンゾーン in 東京公式HP

12 台風19号への対応

2019（令和元）年10月12日（土）、台風19号が関東甲信越・東北地方を直撃し、各地に甚大な被害をもたらした。

組織委員会は、台風上陸の前々日の10日（木）には、12日（土）の横浜国際総合競技場及び豊田スタジアムの試合中止を発表した。また、鉄道事業者が計画運休実施の可能性を発表したことなどもあり、都は、区部会場については12日（土）の開催を、多摩会場については、屋外仮設物の安全確保が困難なことから、11日（金）及び12日（土）の開催を、それぞれ中止することとした。

また、台風が接近する11日（金）には、区部会場の看板等に転倒防止用のベルトやウエイトの設置などの対策を行い、台風の上陸に備えた。なお、調布市では、台風が伊豆半島に上陸した12日（土）夜、多摩会場のパブリックビューイング会場となっていた調布市グリーンホールを市民の避難所として開放した。

台風は、激しい暴風雨を伴いながら関東地方を縦断し、13日（日）未明には東北地方から海上へと通過した。これに伴い、同日朝には都内の天候は回復し、調布市グリーンホールに開設されていた避難所も閉所された。

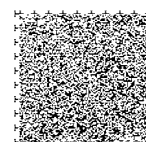
組織委員会は、13日（日）午前、横浜会場の状況を確認のうえ、同日予定されていた日本対スコットランドの試合の開催を決定した。都においても、ファンゾーン両会場について、施設に大きな被害が生じていないことや、気象情報、公共交通機関の状況などから、開場時間を当初予定の12時から18時に変更して開催することとした。



区部会場における台風対策の様子



区部会場における10月13日（日）
の開場前の様子



両会場ともに、台風通過直後にもかかわらず、日本対スコットランドのパブリックビューイング観戦に、早い時間から多くの来場者があった。そのため、予定より早く開場し（16時半過ぎ）、開場後約1時間後には、入場規制を実施するほどの賑わいだった。

なお、多摩会場についてはグリーンホールのみで開催とし、当初、屋外ステージで予定していたトークショーをグリーンホールに移し、実施した。

また、10月19日（土）から最終日までの6日間にわたり、台風19号により被害を受けた被災地支援の義援金募集を行い、外国人を含む多くの来場者からの寄付を受けた。



多摩会場におけるトークショーの様子

13 ファンゾーンへの来場者数

計画では、東京スタジアムでの試合日及び土日（15日間）の来場者数は、両会場1日当たり平均5,000人、その他の開催日は平均2,500人を想定し、大会期間中の総来場者数は、多摩会場の18日間と、区部会場の26日間の合計で185,000人と想定した。

9月20日（金）より開催されたファンゾーンは、台風19号の影響により、多摩会場で2日間、区部会場で1日が中止となったが、大会期間を通じて大いに盛り上がり、両会場合計で想定を大きく上回る延べ310,500人が来場した。また、報道機関等による取材も延べ278回行われ、テレビや新聞等にも大きく取り上げられた。

多摩会場では、東京スタジアムでの試合日には、チケットホルダーが多く立ち寄り、10月19日（土）の準々決勝（ニュージーランド対アイルランド）の試合前には、来場者の半数以上を外国人が占めた。

その他の日は、日本人が中心で、性別を問わず、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の来場があった。パブリックビューイングのほか、ラグビートップチーム等と連携したラグビーアクティビティや、多摩地域の温泉を直送した足湯体験、調布市内の映画製作会社と連携した時代劇体験等の人気が高かった。総来場者数は16日間で延べ131,900人であった。



10月19日（土）の様子

区部会場では、全ての日程において外国人の来場者が多く、特に準決勝以降は、外国人が半数に迫る状況となった。

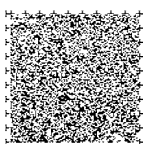
日本人の来場者は、平日には特に仕事帰りの社会人が多く、土日には家族連れも来場した。パブリックビューイングのほか、特別展「日本のラグビー史」、ビアバー、公式グッズ販売コーナーの人気が高かった。総来場者数は25日間で延べ178,600人であった。



平日の様子（9月26日（木））

両会場とも大会期間を通じて、国内外から訪れた大勢の来場者が、応援チームの好プレーに感動・興奮し、相手チームの好プレーを称賛しながら応援していた。試合終了後は、敵味方の隔てなく、互いの健闘をたたえ合い交流するなど大いに盛り上がっていた。

RWCを直接試合会場で観戦する楽しみ方とは別に、会場に行かずともRWCの感動・興奮を



同様に体験し、楽しめる場となるなど都民・国民に対し、新たな観戦の楽しみ方を提供した。

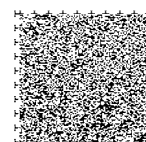
<ファンゾーン開催日数・来場者数（延べ人数）>

	開催日数	来場者数	(参考) 平均来場者数	
			東京での試合日 及び土日(14日間)	その他の 開催日
多摩会場	16日間	131,900人	9,104人/日	2,225人/日
区部会場	25日間	178,600人	9,800人/日	3,764人/日
計	—	310,500人	—	—

※台風19号の影響により、多摩会場では10月11日(金)、12日(土)は中止、13日(日)は開場時間を遅らせ、屋内会場のみを実施。区部会場では10月12日(土)は中止、13日(日)は開場時間を遅らせて実施。

<日別・会場別内訳>

日程	天候	試合内容	多摩会場	区部会場
9月20日(金)		開会式 日本 対 ロシア	11,500人	10,000人
9月21日(土)		オーストラリア 対 フィジー フランス 対 アルゼンチン ニュージーランド 対 南アフリカ	11,500人	11,000人
9月22日(日)		イタリア 対 ナミビア アイルランド 対 スコットランド イングランド 対 トンガ	6,500人	8,500人
9月23日(祝)		ウェールズ 対 ジョージア	2,100人	2,500人
9月24日(火)		ロシア 対 サモア	—	2,100人
9月25日(水)		フィジー 対 ウルグアイ	—	2,600人
9月26日(木)		イタリア 対 カナダ イングランド 対 アメリカ	—	4,600人
9月28日(土)		アルゼンチン 対 トンガ 日本 対 アイルランド 南アフリカ 対 ナミビア	9,500人	11,300人
9月29日(日)		ジョージア 対 ウルグアイ オーストラリア 対 ウェールズ	11,000人	8,500人
9月30日(月)		スコットランド 対 サモア	—	3,400人
10月2日(水)		フランス 対 アメリカ ニュージーランド 対 カナダ	—	6,300人




10月3日(木)		ジョージア 対 フィジー アイルランド 対 ロシア	—	4,900人
10月4日(金)		南アフリカ 対 イタリア	2,350人	4,200人
10月5日(土)		オーストラリア 対 ウルグアイ イングランド 対 アルゼンチン 日本 対 サモア	17,000人	15,000人
10月6日(日)		ニュージーランド 対 ナミビア フランス 対 トンガ	7,500人	7,500人
10月8日(火)		南アフリカ 対 カナダ	—	2,700人
10月9日(水)		アルゼンチン 対 アメリカ スコットランド 対 ロシア ウェールズ 対 フィジー	—	6,300人
10月11日(金)		オーストラリア 対 ジョージア	中止	1,800人
10月12日(土)		ニュージーランド 対 イタリア イングランド 対 フランス アイルランド 対 サモア	中止	中止
10月13日(日)		ナミビア 対 カナダ アメリカ 対 トンガ ウェールズ 対 ウルグアイ 日本 対 スコットランド	1,250人	4,900人
10月19日(土)		イングランド 対 オーストラリア ニュージーランド 対 アイルランド	9,500人	13,200人
10月20日(日)		ウェールズ 対 フランス 日本 対 南アフリカ	12,000人	11,000人
10月26日(土)		イングランド 対 ニュージーランド	6,200人	8,000人
10月27日(日)		ウェールズ 対 南アフリカ	6,000人	7,100人
11月1日(金)		ニュージーランド 対 ウェールズ	8,000人	8,900人
11月2日(土)		イングランド 対 南アフリカ	10,000人	12,300人

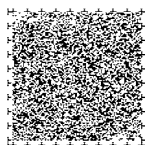
各会場合計 131,900人 178,600人

両会場合計 310,500人

※下線太字 : 東京スタジアム開催

赤 字 : 日本代表戦

 : 東京スタジアム試合日及び土日 (15日間)



14 区市町村との連携

大会の一層の盛り上げを図るため、都内各区市町村においても、パブリックビューイングを実施した。なお、各区市町村による取組の促進を目的に、都は補助金による支援を実施した。

<区市町村によるパブリックビューイング>

区市町村名	開催日数	開催場所
港区	4	品川インターシティ、トレードピア、DECKS 東京ビーチ、区立芝公園
新宿区	14	伊勢丹新宿店本館屋上、歌舞伎町シネシティ広場
文京区	1	東京ドームシティアクアガーデン
台東区	2	御徒町南口駅前広場
墨田区	6	東京スカイツリータウン®スカイアリーナ
中野区	1	中野体育館
杉並区	1	セノンスポーツゼロ
北区	5	赤羽体育館
練馬区	3	石神井区民交流センター、ココネリホール、練馬文化センター
足立区	1	足立区役所
武蔵野市	4	境南ふれあい広場公園、武蔵野陸上競技場、武蔵野総合体育館
三鷹市	2	三鷹駅前コミュニティ・センター
青梅市	1	青梅市文化交流センター
府中市	11	けやき並木通り、府中市市民活動センター
昭島市	1	栗田工業昭島グラウンド
町田市	3	町田ターミナルプラザ市民広場、町田市生涯学習センターホール、和光大学ボプリホール鶴川
日野市	2	ひの煉瓦ホール小ホール（日野市民会館）、イオンモール多摩平の森
国分寺市	1	cocobunji プラザリオンホール
狛江市	3	狛江エコルマホール、狛江市えきまえ広場
西東京市	1	ASTA 西東京



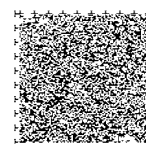
区立芝公園（港区）



cocobunji プラザリオンホール
（国分寺市）



狛江エコルマホール（狛江市）



Voice!

来場者のみなさまの声を聞いてみました！



新宿駅で迷っていたところ、ボランティアの方に案内していただき、電車を乗り間違えることなく、飛田給駅まで行くことができました。



東京スタジアム周辺

海外のトップ選手のプレーを間近で見られるのは貴重な体験だと思い、家族で観戦に来ました。

飛田給駅の構内、ガラス壁面の装飾を見て、いよいよラグビーワールドカップが開幕するのだと実感が湧きました。

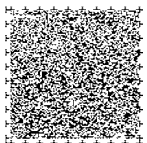
西調布駅から歩いて来る途中、ボランティアの方が声をかけてくれて、とても嬉しかったです。

駅から会場まで歩いていく間に、観客同士が交流できるスペースがあればいいなと思いました。

会場周辺の装飾は頑張っていると思いますが、過去大会と比べたら、これでも少ないんじゃないかと思います。



多磨駅からシャトルバスに乗り、スムーズに会場まで行くことができました。



家のテレビと違って大画面で、みんなで盛り上がる事ができるというのは、ファンゾーンの醍醐味だと思いました。



満員で画面がよく見えなかった。モニターをもう少し高い位置に設置してほしい。



ラグビーの体験ができたり、ゲストの方の話が聞けたり、試合前から楽しめるのがいいですね。

ラグビー体験は楽しかったのですが、混んでいて待ち時間が長かったです。

この街に、こんなに外国人の方がいるのを見るのは初めて。この風景を見るだけでも楽しい。

ファンゾーン

昔のユニフォームの展示も懐かしくてかこよかったです。写真の展示も臨場感があり、感動が伝わってきました。

